



イ) 導入効果

(ア) 摘採作業が1名で、10aを50～70分で摘採可能となる。(600kg/10a摘採の場合)

(イ) 可搬型摘採機に比べ、延べ作業時間(作業時間×人数)は2/3～1/4程度に短縮できる。また、労働強度が低下する。

ウ) 導入の経済性

表8 乗用型摘採機と可搬型摘採機の経済性比較

乗用型摘採機 (可搬型摘採機と比較して)	
減価償却費	大
燃料費	やや大
労働費	小
収穫量	中
単価	やや高
粗収	やや高
所得	やや高

機械の購入価格は高いため減価償却費が増大する。しかし、2人組ではなく1名で摘採作業が可能になることをはじめ、余剰労力の活用でかぶせ茶など高単価製品の生産が可能となり、人件費も減少するため、所得はやや増大する。

エ コンテナ式乗用型摘採機

ア) 導入による省力化

表9 一番茶における作業時間の推定<sup>1)</sup>

成木園面積	摘採形態	生葉収量 (kg)	1日の摘採量 (kg/日)	1日の摘採時間 (h/日)
4ha	コンテナ式乗用型摘採機	26,000	1,857	5.7
	乗用摘採機	26,000	1,857	3.1
5ha	コンテナ式乗用型摘採機	32,500	2,321	7.1
	乗用摘採機	32,500	2,321	3.9
6ha	コンテナ式乗用型摘採機	39,000	2,785	8.6
	乗用摘採機	39,000	2,785	4.7

1) 茶園の成木園面積に適した摘採機の機種

(長崎県総合農林試験場ニュース No.62 2003.3から抜粋・一部改変)

イ) 導入効果

(ア) 空の収葉袋を収葉枠に取り付けたり、摘採後の収葉袋を収葉枠から外して運搬する作業が不要になるため、作業能率が向上する。

(イ) 茶生葉で満杯になった重い収葉袋を人手により搬出する必要がないため、作業労力が軽減できる。

ウ) 導入の経済性

コンテナ式乗用型摘採機の購入価格は高いため減価償却費が増大する。しかし、余剰労力の活用で、かぶせ茶など高単価製品の生産が可能となり、人件費も減少するため、所得はやや増大する。

オ その他の乗用型機械

ア) 乗用型防除機の導入効果

- (ア) 畦型のブームにより農薬散布時の散布ムラが生じにくくなるため均一に散布でき、薬量が最小限で済み、農薬コストの削減と散布回数の低減が期待できる。
- (イ) 乗用型のため、作業者が農薬に被曝するリスクが減少し、作業者の安全が確保できる。
- (ウ) 1名で農薬散布作業ができ、10 a の茶園を20分程度で防除可能となる。
- (エ) 機体重量が500kg程度の軽量・小型の乗用型摘採機をベースとするため、比較的小規模の茶園への導入も容易である。

イ) 乗用型複合管理機の導入効果

- (ア) 防除、深耕、肥料散布、堆肥散布、中切り剪枝など、アタッチメントを交換することにより様々な作業が1台で可能となり、作業時間の短縮化と省力化につながる。